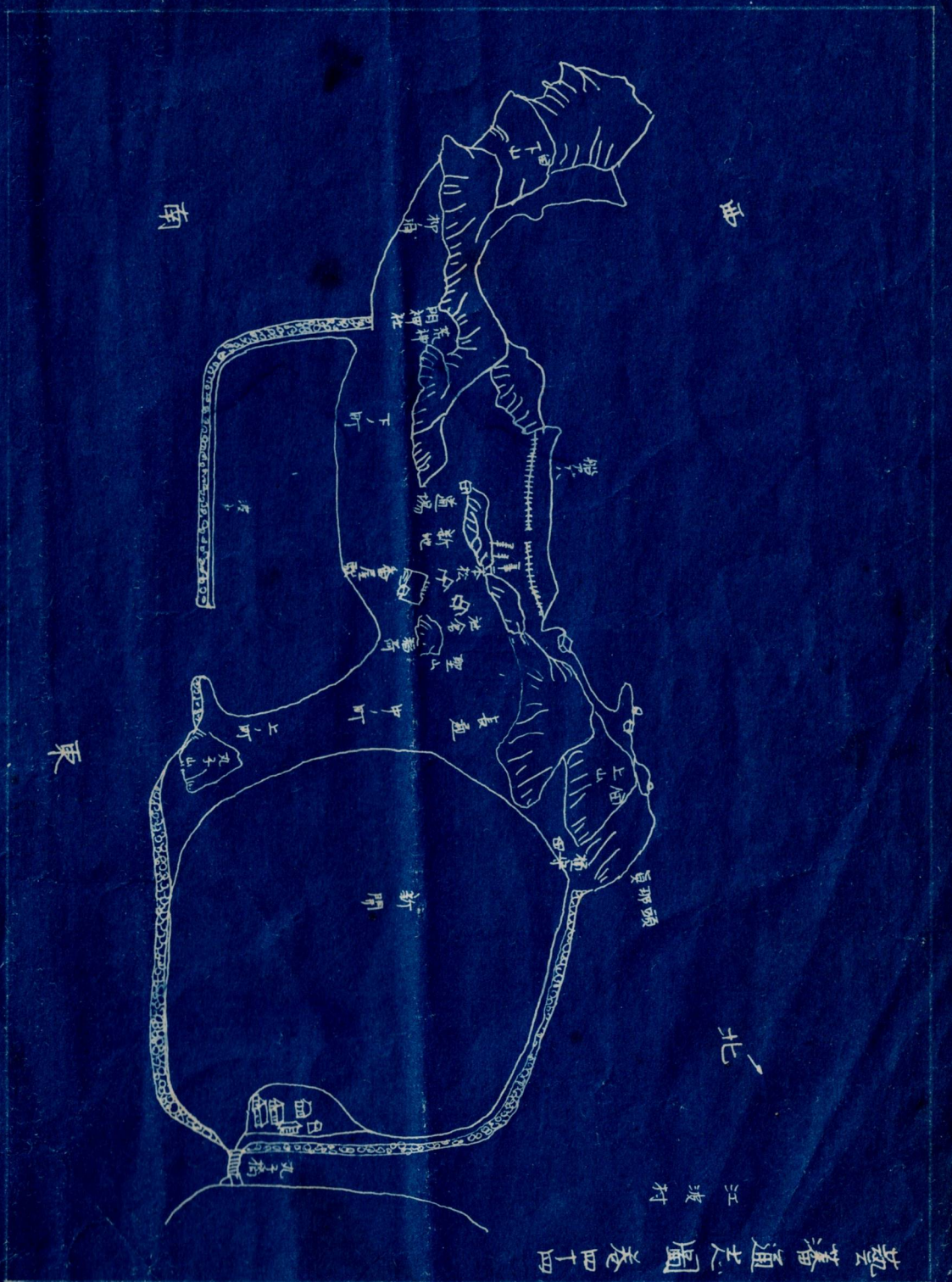


江波の歴史

一九五三年編

三三三九



江波町略年表

年号

西曆

事

項

天平年間

七二九

貞親とつう公郷が江波に来た時に島の者が牡蛎を献じたと云ふ

天祿年間

九七〇
九七二

江波の古名「名原島」を「石切島」と改めたという
飢饉のため江波の島民が貝類を喰ひつゝたので「西清入る者」が島民に麥三石を与へ他國より種貝を求め増殖をはかり

正和二年

一一三一

安藝國司所祭宮社一人。社の樂音寺安藝國神名帳に「三位衣羽明神出す

永祿十一年

一五六八

江波村真言宗長門山円通寺三代正玄真宗に改宗し寺号を海空寺と改む

元和五年

一六一九

安南郡古地図に「瀬戸より七里」とあり江波港をあらわす
佐東郡江波村民耆の洲の蛤蚶を藩主に献す

元和年間、石切島を江波村と改めたりとつう

寛永十年

一六三三

宇品島附近に死鯨浮き江波にて解体す

寛文四年一六六四 佐東郡江波村を沼田郡江波村とす

延宝七年一六七九 六月江波新開(舟入沖新開)成る

元禄十五年一七〇二 六月江波沖に鯨浮ぶ金輪島にて解体す

享保七年一七二二 沼田郡江波島庄屋の浦島方御貸銀(毎歳銀一貫目)と廢止す

享保九年一七二四 五月六月江波北浦二十間四方切はぎ江波新開南壘樋より棒火矢試射

明和三年一七六六 一月十五日江波九十一軒焼失

明和五年一七六八 二月二十六日江波北浦の干潟新地開墾許さる

安永五年一七七六 五月四日江波大火民家百五戸商船三隻高札場又番所並に番所長屋焼失(三月二十四日とせう)七月二十六日

江波御番差止戸田庄兵衛を定番仰付けらる

宮島管絃祭に江波の船始まる

天明八年一七八八 江波御屋三代目又七海老等海苔を初めて作り藩主に献と

寛政元年一七八九 小島貴紳へ贈物とさる

文化五年一八〇八 七月丸子山に不動尊を祀る初代堂守中屋幸助在り

六年一八〇九 十二月二十五日江波割庄屋市左衛門功学により藩主に羊頭の御目見許さる

八年一八一二 閏二月二十七日丸子新開築調起工

九年一八一三 十二月丸子新開竣工の功により代官手附の者褒美を頂く

十四年一八一七 三月江波港修築起工家中より寄附あり

文政元年一八一八 江波に於て歌舞伎芝居興行座元松島二郎

八年一八二五 藝藩通志繪図に丸子橋出す

十二年一八二九 四月八日今中大學真孤別荘にて江波血山のかまえ忠右衛門

及職人五人の製陶を見る。五月二日今中大學より江波血山に行

き製陶工場を見る。十月四日藩主鷹守の節江波血山の工

場を見る

天保四年一八三三 江波の傳藏海面埋立の功により郡代官より鳥目五貫文を

頂く。四月林弥三次血山掛を命ぜらる

天保十二年一八四一 十二月丸子山(旧帆立山)住吉明神の御神体を丸子神社神取渡谷

碁に渡す。

嘉永 六年一八五三 十一月二日 江波丁打場にて初めて新製西洋式大砲の試射を行ふ。

文久 元年一八六一 江波村にて歌舞伎芝居興行座元中屋元助

元治 二年一八六五 四月二十三日 江波村庄古は奉行に「金三両、同惣古は忠により

金壹両を賞賜さる。

慶應 元年一八六五 十一月七日 丸子橋附近に番所を設けて出入の他國人を檢問す

慶應 年中 江波を貿易港とする藩議きまり 町割を行ひ商家移転

の志、御一新となり 計画中絶す。

三年一八六六 九月 江波新地にて角力興行

明治 四年一八七一

四月八日 廣島縣より自今芝居相撲其外諸雜芸興行場所を江波島に定め市中に於ける興行を禁ずる布令出す。廣島市内の酌婦は全部江波島に移住を命ぜり料理屋も新に開業の者は江波島の外一切許さぬとて縣の布令出す。八月二十三日 縣庁より自今江波へ行候儀勝手下るべき事とて布令出す。

明治 四年一八七一 藩制時代「江波明神」と書っていた「衣羽神社」の社名を旧に復す

五年一八七二 江波村のもと丁打場に會社組織の屠場開設さる

衣羽神社 村社となる

六年一八七三 一月二十八日 江波村海皇寺に小學校善閑舎開設

十年一八七七 六月 江波陸軍射的場設置

十二年一八七九 江波村二本松に廣島市避難舎(約五百坪)建設(明治二十八年十月廢止)

年十月廢止

十四年一八八一 九月二十一日 江波稻荷社跡へ小學校新校舍建築

十五年一八八二 一月 丸子新聞を江波村に合併

十七年一八八四 八月二十四日夜半 江波大水害十七ヶ所流矢二百余ヶ倒壊

十月 江波小學校を志仁小學校と改む

十八年一八八五 吉本開成

二十二年一八八九 三月 江波志仁小學校を志仁簡易小學校と改む

二十四年一九〇一 三月 江波志仁簡易小學校本川尋常小學校の分教室となる

三十二年一八九八 八月江波山公園許可
 三十三年一九〇〇 四月丸子新開二の割に新校舎と建て江波尋常小學校を開設
 三十六年一九〇三 六月江波公園一般の遊覧を許さる
 大正五年一九一六 七月一日江波村を江波町と改む

昭和八年一九三三 六月十四日県立廣島商業學校南竹屋町より江波町の新校舎に移す
 九年一九三四 十月江波尋常高等小學校校舎十六教室焼失
 十年一九三五 一月一日広島測候所江波山の新庁舎に移す
 十五年一九四〇 十一月三日江波沖埋立起工式
 十八年一九四三 十二月三菱重工広島造船所建設事務所開設
 十九年一九四四 三月十五日三菱重工廣島造船所開所式
 二十年一九四五 八月六日原爆により江波國民學校校舎四教室倒壊残餘の校舎は臨時校舎所及医療團病院となる。十一月十五日三菱重工広島造船所と造船部合併

昭和二十一年一九四六 江波國民學校の医療團病院閉鎖
 二十二年一九四七 三月縣營工業港江波地已埋立地三十五万一千八百四十五坪の埋立地竣工
 二十四年一九四九 四月十五日広島市立第六中學校本川小學校より江波町元縣商校舎に移す。八月江波公園南林原埋立地に江波小學校新校地買収校舎一棟落成。

二十五年一九五〇 元広島県立広島商業學校廣島大學政経學部となる。
 二十六年一九五一 八月広島市立江波中學校(旧第六中學校)新校舎旧射的場に落成開放す。
 二十七年一九五二 三月三十一日旧江波小學校校舎広島市厚生事業に取用する。四月十日江波小學校新校舎八教室起工

江波の戸数及人口	昭和十三年(一九三八)	七三一世帯 三六〇二人
	廿五年(一九五〇)	二〇五九世帯 八〇五三人
文政八年(一八二五)	二二五戸	一〇九八人
大正十一年(一九二二)	四九一戸	三〇〇八人

